

## ハンセン病 認知状況

### ハンセン病の認知率 64.4%

- 性別では男性 66.4%、女性 62.5%で、男性の方がわずかに認知率が高いが、大きな差は見られない。
- 年代別では、10-20 代では 52.3%だが、60 代では 80.7%と 8 割を超えており、男性・女性とも年代が高くなるにつれて、認知率が高くなっている。
- エリア別では、北海道・東北 62.2%に対し、九州・沖縄では 72.4%となっており、西日本で認知率が高くなる傾向が見られる。

### ハンセン病認知者の認知度は 7 割の人が「少し知っている」と回答

- 「少し知っている」が 71.0%と 7 割を超えており、ハンセン病を知っていても認知度が高いとはいえない。
- 年代別では、10-20 代で「よく知っている」が 10.9%と他の年代より多く、認知率は低いものの、認知者の認知度は比較的高い。
- エリア別では、「よく知っている」が最も高いのが九州・沖縄 10.4%で、次いで中国・四国 7.1%となっており、認知率と同様に西日本で認知度が高い。

### ハンセン病の認知経路は「新聞やテレビ」が 8 割以上

- 「新聞やテレビ」が 83.9%で、これに次ぐのが「学校の授業」18.9%となっており、認知経路は圧倒的に「新聞やテレビ」が占めている。
- 「新聞やテレビ」は、10-20 代は 65.3%で他の年代より 20%近く低いが、逆に「学校の授業」は 10-20 代は 49.3%で他の年代より 30%以上高くなっている。

## ハンセン病 偏見・差別について

### ハンセン病の認知内容は8割の人が「偏見や差別がある病気」と回答

- ・ ハンセン病について「偏見や差別がある病気である」が79.5%を占めており、「偏見や差別がある病気」という意識が強い。特に女性の40代以上は8割を超えており、年配の女性であるほど「偏見や差別がある病気」という意識が強い傾向が見られる。

### ハンセン病の「偏見・差別」についての認知事項は「隔離される」が8割以上

- ・ 「隔離される」が84.6%と圧倒的に多く、すべての性別・年代・エリアで7割以上の認知率となっている。ハンセン病が「隔離」というイメージと一体化していることが想定される。

### ハンセン病の患者・回復者に「会ったことがある」4.7%

- ・ 実際に「会ったことがある」のは、いずれの性別・年代でも1割に満たない。ただし、エリア別では「九州・沖縄」10.4%、「中国・四国」7.1%で他のエリアよりも多く、西日本で比較的高くなっている。

### ハンセン病の「偏見・差別」をなくすための施策は「学校」「メディア」「政府」

- ・ 「学校で正しい知識を教える」が81.5%と最も多く、すべての性別・年代・エリアで7割以上の回答となっている。
- ・ 次いで「メディアが積極的に報道、紹介する」63.3%、「政府が積極的に差別撤廃のために取り組む」43.8%で、特に政府は60代が5割以上の回答となっており、高齢者は政府による施策が必要という意識が強い傾向が見られる。